

佳作

進め輝く未来へ

青森県五所川原市立五所川原第一中学校

3年 葛西 紗良

中学校生活最後の年。私は将来に向かって突き進んでる最中です。

私は中学校に入りたてのとき、あまり具体的な夢を持っておらず大学を卒業したら宮城で働こうという目標しかありませんでした。しかしあるとき、五所川原で地域社会の担い手が不足していることを知りました。また青森県でなくなるかもしれない市町村の中にも五所川原市が入っていることも分かりました。私はそれを知って衝撃を受けました。

確かに私みたいに地方中枢都市や上京して働きたいという人が多いです。その一方でIターンやUターンなどをする人もおり、その人たちが地域社会の担い手になっている場合もあります。これらを受けて私は五所川原の地域社会や魅力についてもっと知りたい、関わりたいと思うようになりました。

それらの条件をかなえる仕事として五所川原市役所の職員がありました。市役所の職員への道は長く険しい道だと思いますが、決して変わることはないであろう夢、目標になったのでますます勉強に力が入るようになりました。特に力を入れているのは英語です。私は正直英語があまり得意ではありません。しかし、外国人にも五所川原市の魅力を知ってもらうには、コミュニケーションや言語を知る必要があります。世界的に見ても多く使われている英語を理解する必要があると思いました。そこで挑戦したのが英検です。まだ4級までしか合格していませんが、塾や学校の先生の指導のもと英語を頑張りたいし、ちゃんとした知識を身につけていきたいです。

そしてこんな私を支えてくれたのは家族をはじめとした周りの人たちです。その中でも特に感謝したいのは母と友人です。

母はれっきとした津軽の人で、津軽弁や津軽の文化を教えてくれました。また私のぐちを聞いてくれたり、私が学校でミスをしたときになぐさめてくれたり、テストや検定であまりいい結果を残せず行き場のないイライラをぶつけてしまっても、いつもと変わらない態度で接してくれたり、思い返せば母に頼ってばかりです。また母は私の良き理解者で、検定やテストのときに頑張れと応援してくれたり、行きたい高校や将来についてじっくり聞いてくれて肯定し、「あなたならできる。」と背中を押してくれました。そして私自身のことを第一に考え、休みの日でも私との時間を大切にしてくれて、真剣に向き合ってくれました。母には感謝してもしきれないし、私ももし母親になるならば、母のよ

うに真剣にわが子に接する母親になりたいです。

友人とはお互いに夢を語り合いいろいろなことで切磋琢磨し合う、いわばライバルでもある存在です。困難にぶつかったときは互いに考えを出し合うし、勉強でつまづいたときには教え合うのも日常です。また自分が知らなかったことにも出合えるし自分とは異なる価値観での意見を知ることができます。友人は自分の新たな可能性を見つけ出してくれるので、その発見を大事にしたいし、感謝したいです。

このように私は多くの人に支えられて今まで生きてこられたと思います。また出会いは一期一会という言葉があるように、出会いはもしかしたら一度しかない貴重なものかもしれません。だからこそ出会いを大切にし、たくさんの人とふれ合って、自分の世界を広めていきたいです。これもまた、私が市役所の職員になりたいと思った理由の一つです。あとは五所川原市の代表的な祭りである五所川原立佞武多の運営にもっと身近に関わりたいからです。その理由は、学校で祭りの運営側で参加したときに楽しいと思ったからです。また私自身もこの祭りが大好きで、絶対に絶やしたくないという思いがあります。

人生は一度しかありません。だから今一瞬を全力で生きたいし、何より楽しみたい。そして無理かもしれないことでもチャレンジする精神は大切だと思います。

誰だって初めは不安です。けれどうまくいくことを考えればいつか必ず成功するでしょう。